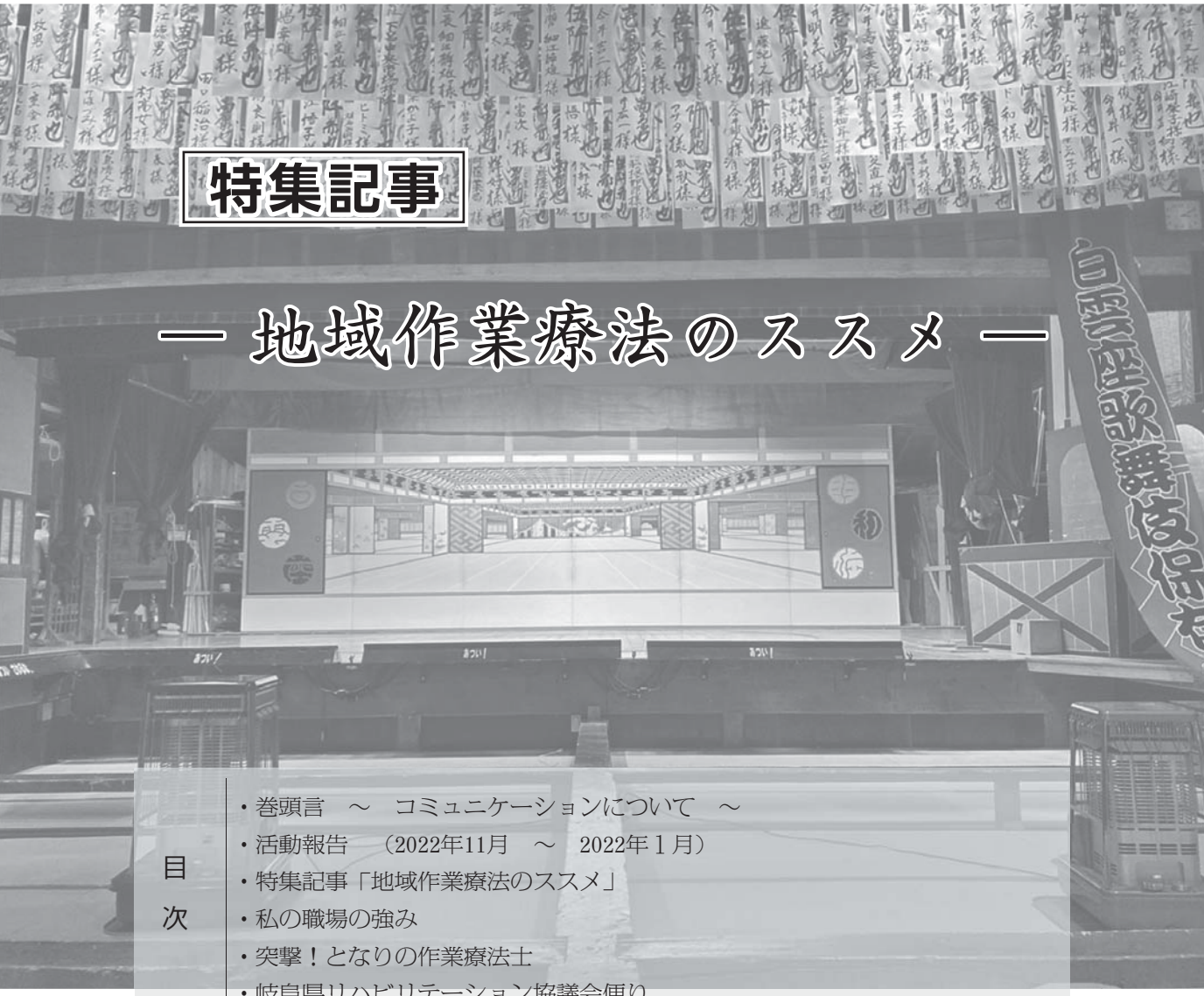
Gifu Occupational Therapist Association News

ごったに 104号

2022年 1 月

事務局：平成医療短期大学 リハビリテーション学科作業療法専攻
〒501-1131 岐阜市黒野180 TEL＆Fax:058-234-6763
E-mail:jimu@gifu-ot.com　http://gifu-ot.com



特集記事

― 地域作業療法のススメ ―

目次

・巻頭言　～　コミュニケーションについて　～
・活動報告　（2022年11月　～　2022年１月）
・特集記事「地域作業療法のススメ」
・私の職場の強み
・突撃！となりの作業療法士
・岐阜県リハビリテーション協議会便り
・新人会者・退会者数紹介

コミュニケーションについて

近石病院
原　　千太郎

４月で近石病院に在籍して15年が経過する原千太郎と申します。今回、数多くの県士会員の中から私にこのような機会を与えていただき恐縮ですが、現在コロナ禍における患者様中心とした、コミュニケーションについてお話ししたいと思います。

まず、当院、その他の施設におかれましても、患者様と御家族の面会制限が強いられていると思います。コロナ禍前は病棟での生活、リハビリの進捗状況がリアルタイムに把握でき、退院後の生活ビジョンが構築し易かったと思います。しかし、現在に至ってはそれらを伝達する事は困難であり，書面や電話での間接的な伝達に成らざるをえない状況となっています。そのため、有用な患者様情報を得たうえでリハビリを行えない状況が生じています。そこで、原点に返り、目の前にいる患者様とコミュニケーションを図りながら、退院後の生活ビジョンなどを考えることが求められます。

ところで、コミュニケーションとは、大きく分けて「言語」、「非言語」に分かれています。言語とは言葉や文字であり、非言語は表情、声のトーン、ジェスチャー等が含まれます。実際の臨床場面で当院、他の施設において脳血管障害による言語障害、高次脳機能障害、認知機能低下などで言語表出が上手く出来ない患者様は多々見受けられると思います。その様な患者様におかれましても、何かしらの方法により伝えようとされている事を念頭に非言語に注目して接していただきたいと思います。

入院患者様は身体的、精神的苦痛により先行きが不安な気持ちで内向的になっているケースが多い印象があります。リハビリ効果を促進する為には、外向的な部分を引き出す作業が必要となってきます。そこで、実際の臨床場面で重要と考えられるコミュニケーションとは一方向性ではなく、双方向性で成立するものと捉え、言語可能な対人関係においては「ピンポンルール」に基づき、患者様の発言6割以上、OTや他職種の発言は4割以下が望ましいと考えられております。私の実際の経験によれば、４割もOTが発言する必要が無くなって患者様が自ら発言できる様になった時が良好な関係性（ラポール形成）が構築できている印象を持っております。

最後に、コミュニケーションとは社会生活を営む上で重要なもので、特にこの医療業界においては必要不可欠なものである為、今回記載したものが少しでも参考になっていただければ、幸いであると感じております。まだまだ、このコロナ禍は続き、医療スタッフは緊張状態が続きます。隠れた部分は仕方在りませんが見えている目元などは柔和な笑顔にて患者様に安心感、笑顔をもたらす様な優しさを持ったOTとして共に頑張りましょう。

岐阜県作業療法士会　活動報告

2021年11月～2022年1月

【記載内容】
日付／内容（場所）
＊備考（研修会のテーマ・参加者数など）

全部局

1月22日／岐阜県作業療法士会　理事会
(web)

会長

11月19日／協会「協会員＝士会員」実現のための情報交換会　(web)
11月30日／岐阜県多「食」種連携研究会議
12月11日／第3回47都道府県委員会　(web)
12月12日／東海北陸作業療法学会　会場視察
（富山県国際会議場）

社会局

広報部（会員向け）
11月30日／広報誌「ごったに」103号　発行

地域リハ推進部
11月20日／地域支援事業への参画のためのweb研修会　(web)
11月21日／フレイル・災害研修会　(web)
11月28日／地域包括ケアシステム・地域ケア会議　(web)
12月5日／地域で活躍するリハビリ専門職の実際　(web)

連載

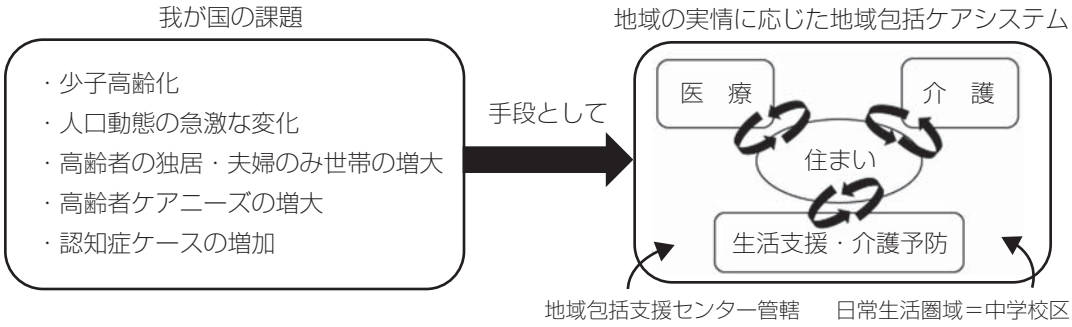
地域作業療法のススメ ①

問合せ先：地域リハ推進部（藤井稚也）
waka-fuji@gifuhoken.ac.jp

Q1．今、地域包括ケアシステムの構築と進展が必要とされ、作業療法士の活躍が期待されています。
ところで、地域包括ケアシステムって何ですか？

A1．「ニーズに応じた住宅が提供されることを基本としたうえで、生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護、予防のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが日常生活の場（日常生活圏域）で適切に提供できるような地域での体制づくり」です。最も人口層の多い団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025年までに実現を目指すとされています。

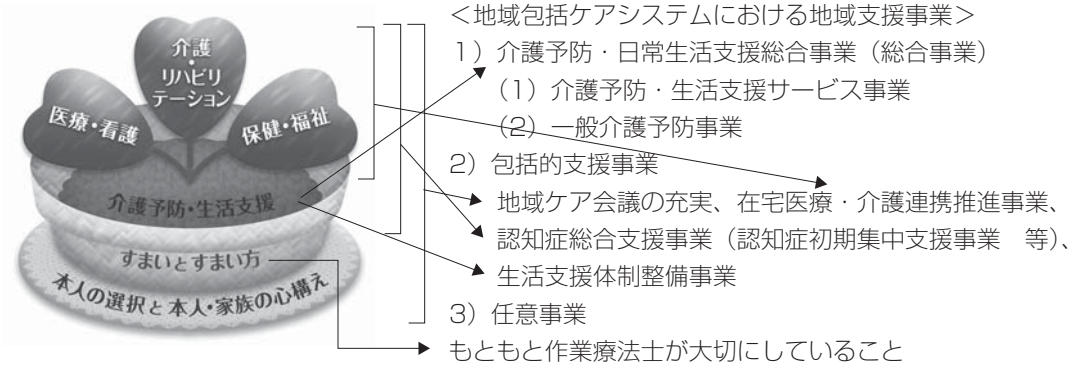
このシステムでは、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供**されます。



Q2．地域包括ケアシステムの構築ならびに進展には、具体的に何をすればいいですか？

A2．地域包括ケアシステムの構築・進展には、ツールとして**地域支援事業**を展開する必要があります。

地域支援事業は、介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）、包括支援事業、任意事業からなり、これらの**全てにおいて、作業療法士の活躍が期待されており、多くの派遣依頼に対して受諾（行政等の事業のため有償）しております（詳細は次回）。**地域リハ推進部では、派遣依頼に応える人材の確保・育成に力を入れ、将来の職域拡大（行政OT等）を見据えて活動しています。



出典：三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング「＜地域包括ケア研究会＞地域包括ケアシステムと地域マネジメント」（地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業）、平成 27 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業、2016 年。矢印を加筆して掲載した。

私の職場の強み

第22回

社会医療法人 緑峰会 養南病院

診療科目：精神科・心療内科
病　　床：176床
ＯＴＲ数：５名
（他にデイケア４名、クリニック２名）

当院は「ストレスケア」「リハビリテーション」「救急・急性期治療」「医療者の一人よがりや自己満足にならない」「より良い医療を提供するためには職員も働きやすく、やりがいの持てる環境を」をキーワードに、地域の精神医療機関としての役割を担っています。

回復段階や疾患に合わせた入院作業療法の提供

作業療法士は病棟担当制となっており、それぞれの病棟や回復段階に合わせた作業療法を実施しています。

具体的には「急性期・ストレスケア病棟」では、心理教育や認知行動療法、リラクゼーションプログラム、「社会復帰病棟」では、社会生活技能やセルフケア技能の向上を目指したプログラム、「療養病棟」では季節を感じられるレクリエーションや転倒予防の身体プログラム、高齢者を対象とした回想法等が挙げられます。

また、多職種で実施しているプログラムがあったり、ケースカンファレンス、リハビリを考える会議を定期的に行ったりと多職種で連携して患者様が自分らしく生活できるための支援を行っています。

入院から地域生活まで連携したサポート

当院ではデイケア･リワークを併設しており､周辺にはグループホーム､支援アパート、就労支援施設があります。他にも訪問看護も行っており、退院後も安定した地域生活を送れるようなサポート体制が整っています。

また、岐阜市の「ぎふストレスケアクリニック」とも連携しています。

地域に開かれた病院

現在はコロナ禍のため中止していますが、夏祭りやおいでんさい祭、家族教室も開催しています。他にも「養南新聞」を発行したり、ゆるキャラ「みかルん」を作ったりと、親しみやすく地域に開かれた病院を目指しています。

キャリアサポート

院内研修や新人研修等、キャリアサポートも充実しています。

また月に１度、外部から指導の先生をお迎えして法人内の作業療法士で研究会議を行っています。

第24回
突撃となりの作業療法士

のぞみの丘ホスピタル
藤澤鮎美先生　からのご紹介

急性期から患者さんの作業に対する「想い」に寄り添うことの大切さ

朝日大学病院
建　石　光　貴

略歴：
2013年3月　作業療法士免許取得
4月　JA岐阜厚生連 中濃厚生病院　入職
2017年3月　同上　退職
4月　朝日大学歯学部附属 村上記念病院
（現；朝日大学病院）入職
2020年4月　北海道医療大学大学院
リハビリテーション科学研究科
博士前期課程　入学

私は大学院の研究にて、脳卒中急性期の患者さんが脳卒中の経験をどのように意味づけているのかを調査しました。

その結果、参加者は突然に投げ込まれた脳卒中の「世界」に困惑し、目まぐるしい身体症状の変動に伴って様々な心情を抱きながらも、そこに留まるのではなく、生活を立て直すための手段を繰り返し検討していたことが分かりました。

この研究の重要な点は、患者さんが急性期から様々な心理社会的問題を抱えていたということです。このことは、身体機能面の改善のみに主眼が置かれやすい急性期の現場において、患者さんが抱える心理社会的問題を見過ごさないよう考慮した関わりが必要であることを示しています。

作業療法の専門性は「作業を用いて健康と幸福を支援する」ことなので、患者さんの作業に対する想いに寄り添い、一人ひとりの経験を理解することはとても大切であると感じながら、日々の臨床に取り組んでいます。

一社）岐阜県リハビリテーション協議会だより（第11回）

文責：会長　柴　　貴 志（岐阜県立多治見病院）

今年の冬は例年以上に（これが通常？）冬らしく寒さも厳しいです。冬が厳しいほど春の芽吹きは力強く、生命力に溢れるといいます。倍々ゲームをしているように、止まないオミクロン株の感染拡大が終息した暁には、逞しさを持った新しい文明社会が待つのでしょうか。

今年度もコロナ下では、事業実施の制約を受けている状況ですが、協議会独自事業の高校生１日体験、県の補助金関連（専門職派遣事業、訪問リハ研修会など）事業をじっししています。

ただ、法人化後３年余り経過し、はっきり言えることは、事業実施の裏付けもですが、事務局機能が最重要課題です。組織のコアなところがしっかりしていないと事業継続と発展は難しい。その点、事務局機能の強化に、前ＰＴ 士会会長の舟木先生がお力添えいただける見通しがついたことは今年度の収穫であり、次年度からの期待が膨らむところです。

2022年1月
岐阜県全会員数623名（休会者を含む）
県士会所属施設168施設

印刷　**（有）いすくら**
〒501-2514 岐阜市三輪宮前164-1
TEL.058-229-6091 FAX.058-229-6093
isukra@muse.ocn.ne.jp

機関誌編集部

機関誌「岐阜作業療法」論文投稿のお願い

日頃より機関誌編集部の活動にご協力頂きまして、厚く御礼申し上げます。

この度、機関誌「岐阜作業療法」発刊に向けて準備を進めておりますが、現在、論文の投稿が少ない状況です。

岐阜県作業療法学会だけでなく、日本作業療法学会等、他学会で発表された方も、論文として岐阜作業療法に投稿してみてはいかがでしょうか？

「論文を書くのは難しそうだ」と思っている方も多いと思います。査読等の手続きを通して、掲載までサポートしますのでご検討頂けると幸いです。よろしくお願い致します。

機関誌編集部　宇佐美　知子
E-mail : usami-dort@toyota.ac.jp

広報部（会員向け）

岐阜県作業療法士会ニュース
「ごったに」編集
岐阜県作業療法士会（広報部・会員向け）

山田病院
〒501-0104　岐阜市寺田7丁目110番地
TEL. 058-254-1411
FAX. 058-254-1413

山内ホスピタル
〒500-8381　岐阜市市橋３丁目７番22号
TEL. 058-276-2131
FAX. 058-276-1501